

1 本年度の重点教育目標

確かな学びを通して自信をもち、自分らしく未来を生きる生徒の育成

2 本年度の取組の重点

- 1 教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの質の向上
- 2 多様な学びを通じて、学びの基礎を担保する教育活動の充実
- 3 自他の尊重、共感的人間関係をベースにした発達支持的生徒指導の推進
- 4 生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育と不登校対策の充実
- 5 家庭・地域社会との連携・協働の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野 | 評価項目 | 自己評価結果 | | 学校関係者評価 | | |
|----------------------|---|--------|---|----------|----------|---|
| | | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善の方策の評価 | 主な意見（改善策など） |
| 1 カリキュラム・マネジメントの質の向上 | 教育活動を適切に編成・実施し、次年度に向け、評価・改善を図ることができたか。 | b | 評価も含め、様々な学校課題に、柔軟かつ、迅速に、組織的な対応を進めていく。 | A | A | 湯川学などで地域との交流をもち、発表の場があるのは、とても良い。 |
| | 地域の人的・物的資源等を活用した学習活動を運営・実践することができたか。 | a | | A | A | |
| 2 学びの基礎を担保する教育活動の充実 | 望ましい学習習慣の定着と基礎基本の確実な定着（学力向上）を図る取組を推進することができたか。 | b | わかる授業・達成感、成就感のある授業へのさらなる改善を推進し、1人1人に寄り添った学びや補充学習を充実させていく。 | A | A | これからも、子ども1人1人に寄り添っていけるように取り組んで欲しい。 改善への取り組みは、常に前向きに行われている。 |
| | 校内研修を中心とした、教職員の資質能力の向上と授業改善のための取組を推進することができたか。 | a | | A | A | |
| 3 発達支持的生徒指導の推進 | 基本的な生活習慣の確立と発達支持的（積極的）生徒指導の推進を図ることができたか。 | a | | A | A | 生徒1人1人の思いを大切に して、信頼を得ているように 思う。 |
| | 主体性を尊重し自治をめざす生徒会活動の育成を目指した取り組みを図ることができたか。 | a | | A | A | |
| 4 特別支援教育と不登校対策の充実 | いじめ・不登校対策を推進できたか。 | b | ピア・サポート活動やサポートルームの活用、組織的な対応などを通して、より積極的な仲間づくりや環境づくりを推進していく。 | A | A | いじめの未然防止に努め、サポートルームの活用やリモートでのコミュニケーションを大切にしている。今後も継続して欲しい。 |
| | 教育相談活動（ふれあい活動・日常の語り合い・PCや紙面交流等を含む）の充実できたか。 | a | | A | A | |
| 5 家庭・地域社会との連携・協働の推進 | 小中連携、学校運営協議会、校外生活委員会等を計画的に推進できたか。 | a | | A | A | 校外生活委員会など、学校外での子ども達の様子を知ることができるのは良い。 保護者も学校に関心を持っていて、授業参観や学校行事への来校も多い。 |
| | 行事公開、参観日・学校(学級)だより・クラスルーム・HP等での積極的情報発信・信頼関係の構築を図ることができたか。 | a | | A | A | |

■ 自己評価達成状況

| | |
|---|----------------|
| a | ほぼ達成できた（8割以上） |
| b | 概ね達成できた（6割以上） |
| c | 十分ではない（4割以上） |
| d | 達成できなかった（4割未満） |

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

| | |
|---|--------------------------------|
| A | 自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。 |
| B | 自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。 |
| C | 自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。 |
| D | 自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。 |

